

平成 22 年度 佐賀大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

理工・農・文化教育学部 平成 22 年 2 月 25 日

- 理工学部は, [1] ~ [4] 数 I・II・III・A・B・C (120 分)
- 農学部は, [1], [5] ~ [7] 数 I・II・A・B (120 分)
- 文化教育学部は, [8] ~ [11] 数 I・II・A・B (100 分)

1 空間に定点 $A(-4, 0, 4\sqrt{3})$ と動点 $P(-t, t-2, 2\sqrt{3})$, $Q(t, t^2+t-3, 0)$ がある. 原点を O とするとき, 次の問いに答えよ.

- (1) $t=0$ のとき, $\angle POQ$ の大きさを求めよ.
- (2) $|\overrightarrow{OP}|$ の最小値と, そのときの t の値を求めよ.
- (3) 4 点 O, A, P, Q が同一平面上にあるときの t の値をすべて求めよ.

2 座標平面上で, 直線 $l: y = mx$ に関する対称移動によって, 点 $P(x, y)$ が点 $Q(x', y')$ に移ったとする. ただし, m は 0 でない定数とし, 点 P は l 上にないとする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) 線分 PQ の中点が l 上にあることと, 線分 PQ が l と垂直に交わっていることを利用して

$$\begin{pmatrix} x' \\ y' \end{pmatrix} = \frac{1}{1+m^2} \begin{pmatrix} 1-m^2 & 2m \\ 2m & m^2-1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$$

が成り立つことを示せ.

- (2) 直線 $y = \frac{1}{\sqrt{3}}x$, $y = -\frac{1}{\sqrt{3}}x$ に関する対称移動を表す 1 次変換をそれぞれ f, g とする. このとき, 合成変換 $g \circ f$ および $f \circ g$ を表す行列を求めよ.
- (3) (2) で求めた 2 つの行列は, 原点 O を中心とし, 角 θ だけ回転する 1 次変換を表す行列である. それぞれの θ を求めよ.

3 曲線 C を $y = e^x$ とする. C 上の点 $A_0(0, 1)$ における接線と x 軸の交点を $B_1(b_1, 0)$ とし, C 上の点 $A_1(b_1, e^{b_1})$ における接線と x 軸の交点を $B_2(b_2, 0)$ とする. これをくりかえし, C 上の点 $A_n(b_n, e^{b_n})$ における接線と x 軸の交点を $B_{n+1}(b_{n+1}, 0)$ とする. このとき, 次の問いに答えよ.

(1) b_1 を求めよ.

(2) b_{n+1} と b_n の関係式を求め, 一般項 b_n を求めよ.

(3) $\triangle B_n A_n B_{n+1}$ の面積を S_n とするとき, $\sum_{n=0}^{\infty} S_n$ を求めよ. ただし, B_0 は原点とする.

4 e は自然対数の底, a, b, c は実数である. 放物線 $y = ax^2 + b$ を C_1 とし, 曲線 $y = c \log x$ を C_2 とする. C_1 と C_2 が点 $P(e, e)$ で接しているとき, 次の問いに答えよ. ここで, 2つの曲線が点 P で接しているとは, ともに点 P を通り, かつ, その点における接線が一致していることである.

(1) a, b, c の値を求めよ.

(2) C_1, C_2 および x 軸, y 軸とで囲まれた図形の面積を求めよ.

5 数列 $\{a_n\}$ が

$$a_1 = 2, \quad a_{n+1} = 2a_n + 2 \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

で定義されるとき, 次の問いに答えよ.

(1) すべての自然数 n に対して $a_{n+1} + b = 2(a_n + b)$ が成り立つような定数 b を求めよ.

(2) 一般項 a_n を求めよ.

(3) $\frac{a_{2n}}{a_n} \geq 10^{25} + 1$ をみたす最小の自然数 n を求めよ. ただし, $\log_{10} 2 = 0.3010$ とする.

6 θ の関数 $f(\theta) = A \sin(\theta + \alpha)$ は $f(0^\circ) = 1, f(90^\circ) = 1$ をみたしている. ただし, $A > 0, 0^\circ \leq \alpha < 360^\circ$ とする. このとき, 次の問いに答えよ.

(1) A と α を求めよ.

(2) $f(\alpha + 30^\circ)$ と $\sin(\alpha + 30^\circ) \cos(\alpha + 30^\circ)$ を求めよ.

(3) θ の関数 $g(\theta)$ は

$$\begin{aligned} \{f(\theta)\}^2 g(\theta) - k\{f(\theta)\}^2 &= 2\{g(\theta)\}^2 - 2kg(\theta) + g(\theta) - \frac{1}{4} \\ g(\alpha + 30^\circ) &= \sin(\alpha + 30^\circ) \cos(\alpha + 30^\circ) \end{aligned}$$

をみたしている. 実数 k と $g(\theta)$ を求めよ.

7 放物線 $y = -x^2 + 6x - 7$ を C_1 とし、 C_1 の頂点を A 、 C_1 上の点 $(1, -2)$ を B とする。点 A 、 B を通る直線を l とし、点 A 、 B を通る放物線 $y = ax^2 + bx + c$ を C_2 とする。ただし、 a 、 b 、 c は実数、 $a > 0$ である。このとき、次の問いに答えよ。

- (1) 点 A の座標を求めよ。
- (2) 直線 l の方程式を求めよ。
- (3) b と c を a を用いて表せ。
- (4) C_2 と l で囲まれた図形の面積を a を用いて表せ。

8 以下の問いに答えよ。

- (1) 等式 $2 \sin k\theta \sin \frac{\theta}{2} = \cos \left(k - \frac{1}{2}\right)\theta - \cos \left(k + \frac{1}{2}\right)\theta$ を示せ。
- (2) n が自然数のとき、 $S_n = \sum_{k=1}^n \sin k\theta$ を求めよ。

9 以下の問いに答えよ。

- (1) n と r を自然数とする。
 - (i) $n \geq 2$ 、 $r \leq n - 1$ のとき ${}_n C_r = {}_{n-1} C_{r-1} + {}_{n-1} C_r$ を示せ。
 - (ii) $n \geq 3$ 、 $r \leq n - 2$ のとき ${}_n C_r = {}_{n-1} C_{r-1} + {}_{n-2} C_{r-1} + {}_{n-2} C_r$ を示せ。
 - (iii) $n \geq 2$ 、 $r \leq n - 1$ のとき ${}_n C_r = \sum_{k=1}^{n-r} {}_{n-k} C_{r-1} + {}_{n-1} C_r$ を示せ。
- (2) 「あるアイスクリーム店で、6種類のアイスクリームから通常の半額で3種類のアイスクリームを選べるという、格安3点セールを実施している。異なる3種類の組合せは何通りあるか答えよ。」という問題に対して、以下のような答案があった。これを詳しく解説せよ。

(答案) まず $4 + 3 + 2 + 1 = 10$ である。

次に $3 + 2 + 1 = 6$ となる。

さらに $2 + 1 = 3$ である。

最後に 1 がある。

よって $10 + 6 + 3 + 1 = 20$ なので求める組合せは 20 通りである。

10 次の定理を証明せよ.

「三角形の3本の中線は1点で交わり, 各中線はその交点でそれぞれ2:1に分される。」

11 p を $0 < p < 1$ を満たす定数とする. 関数 $y = x^3 - (3p + 2)x^2 + 8px$ の区間 $0 \leq x \leq 1$ における最大値と最小値を求めよ.

正解

$$\boxed{1} \quad (1) \quad t=0 \text{ のとき } \vec{OP} = (0, -2, 2\sqrt{3}), \vec{OQ} = (0, -3, 0)$$

$$\text{ゆえに } |\vec{OP}| = 4, |\vec{OQ}| = 3, \vec{OP} \cdot \vec{OQ} = 6$$

$$\text{したがって } \cos \angle POQ = \frac{\vec{OP} \cdot \vec{OQ}}{|\vec{OP}| |\vec{OQ}|} = \frac{6}{4 \cdot 3} = \frac{1}{2}$$

$$\text{よって } \angle POQ = 60^\circ$$

$$(2) \quad \vec{OP} = (-t, t-2, 2\sqrt{3}) \text{ より}$$

$$\begin{aligned} |\vec{OP}|^2 &= (-t)^2 + (t-2)^2 + (2\sqrt{3})^2 = 2t^2 - 4t + 16 \\ &= 2(t-1)^2 + 14 \end{aligned}$$

$$\text{よって } t=1 \text{ のとき最小値 } \sqrt{14}$$

$$(3) \quad 4 \text{ 点 } O, A, P, Q \text{ が同一平面上にあるとき}$$

$$\vec{OA} = (-4, 0, 4\sqrt{3}), \vec{OP} = (-t, t-2, 2\sqrt{3}), \vec{OQ} = (t, t^2+t-3, 0)$$

は、1次従属である。したがって

$$\alpha \vec{OA} + \beta \vec{OP} + \gamma \vec{OQ} = \vec{0}$$

をみたす α, β, γ が、 $\alpha = \beta = \gamma = 0$ 以外に存在する。

$$\alpha \begin{pmatrix} -4 \\ 0 \\ 4\sqrt{3} \end{pmatrix} + \beta \begin{pmatrix} -t \\ t-2 \\ 2\sqrt{3} \end{pmatrix} + \gamma \begin{pmatrix} t \\ t^2+t-3 \\ 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \quad \dots (*)$$

上のベクトルの z 成分から $\beta = -2\alpha \dots \textcircled{1}$ であるから

$$\begin{aligned} \alpha \begin{pmatrix} -4 \\ 0 \\ 4\sqrt{3} \end{pmatrix} - 2\alpha \begin{pmatrix} -t \\ t-2 \\ 2\sqrt{3} \end{pmatrix} + \gamma \begin{pmatrix} t \\ t^2+t-3 \\ 0 \end{pmatrix} &= \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \\ \alpha \begin{pmatrix} 2t-4 \\ -2t+4 \\ 0 \end{pmatrix} + \gamma \begin{pmatrix} t \\ t^2+t-3 \\ 0 \end{pmatrix} &= \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{したがって} \quad \alpha \begin{pmatrix} 2t-4 \\ -2t+4 \end{pmatrix} + \gamma \begin{pmatrix} t \\ t^2+t-3 \end{pmatrix} &= \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix} \\ \begin{pmatrix} 2t-4 & t \\ -2t+4 & t^2+t-3 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \alpha \\ \gamma \end{pmatrix} &= \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

行列 $\begin{pmatrix} 2t-4 & t \\ -2t+4 & t^2+t-3 \end{pmatrix} \cdots (**)$ が正則であるとき

$$\begin{pmatrix} \alpha \\ \gamma \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix}$$

このとき、①より、 $\alpha = \beta = \gamma = 0$ となり、 \overrightarrow{OA} , \overrightarrow{OP} , \overrightarrow{OQ} は1次独立であり、1次従属ではない。

したがって、行列(**)は正則ではないから

$$(2t-4)(t^2+t-3) - (-2t+4)t = 0$$

$$(t-2)(t^2+2t-3) = 0$$

$$(t-2)(t-1)(t+3) = 0$$

よって $t = -3, 1, 2$

$$\text{別解 (*) より} \quad \begin{pmatrix} -4 & -t & t \\ 0 & t-2 & t^2+t-3 \\ 4\sqrt{3} & 2\sqrt{3} & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$$

$$\begin{aligned} \det \begin{pmatrix} -4 & -t & t \\ 0 & t-2 & t^2+t-3 \\ 4\sqrt{3} & 2\sqrt{3} & 0 \end{pmatrix} &= \det \begin{pmatrix} -4 & -t & t \\ 0 & t-2 & t^2+t-3 \\ 0 & -\sqrt{3}(t-2) & \sqrt{3}t \end{pmatrix} \\ &= -4 \det \begin{pmatrix} t-2 & t^2+t-3 \\ -\sqrt{3}(t-2) & \sqrt{3}t \end{pmatrix} \\ &= -4\sqrt{3}(t-2) \det \begin{pmatrix} 1 & t^2+t-3 \\ -1 & t \end{pmatrix} \\ &= -4\sqrt{3}(t-2)(t^2+2t-3) \\ &= -4\sqrt{3}(t-2)(t-1)(t+3) \end{aligned}$$

$x = y = z = 0$ 以外の解をもつとき、上式は0であるから $t = -3, 1, 2$

- 2 (1) 線分 PQ の中点の中点が $l: y = mx$ 上にあるから

$$\frac{y + y'}{2} = m \left(\frac{x + x'}{2} \right) \quad \text{ゆえに} \quad mx' - y' = -mx + y \quad \cdots \textcircled{1}$$

線分 PQ が l と垂直に交わっているから

$$m \cdot \frac{y' - y}{x' - x} = -1 \quad \text{ゆえに} \quad x' + my' = x + my \quad \cdots \textcircled{2}$$

①, ② から, $\begin{pmatrix} m & -1 \\ 1 & m \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x' \\ y' \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -m & 1 \\ 1 & m \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$ であるから

$$\begin{aligned} \begin{pmatrix} x' \\ y' \end{pmatrix} &= \begin{pmatrix} m & -1 \\ 1 & m \end{pmatrix}^{-1} \begin{pmatrix} -m & 1 \\ 1 & m \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \\ &= \frac{1}{m^2 + 1} \begin{pmatrix} m & 1 \\ -1 & m \end{pmatrix} \begin{pmatrix} -m & 1 \\ 1 & m \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \\ &= \frac{1}{1 + m^2} \begin{pmatrix} 1 - m^2 & 2m \\ 2m & m^2 - 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \end{aligned}$$

- (2) f, g の表す行列を, それぞれ A, B とすると

$$A = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 & \sqrt{3} \\ \sqrt{3} & -1 \end{pmatrix}, \quad B = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 & -\sqrt{3} \\ -\sqrt{3} & -1 \end{pmatrix}$$

$g \circ f$ を表す行列 BA は

$$BA = \frac{1}{4} \begin{pmatrix} 1 & -\sqrt{3} \\ -\sqrt{3} & -1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & \sqrt{3} \\ \sqrt{3} & -1 \end{pmatrix} = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} -1 & \sqrt{3} \\ -\sqrt{3} & -1 \end{pmatrix}$$

$f \circ g$ を表す行列 AB は

$$AB = \frac{1}{4} \begin{pmatrix} 1 & \sqrt{3} \\ \sqrt{3} & -1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & -\sqrt{3} \\ -\sqrt{3} & -1 \end{pmatrix} = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} -1 & \sqrt{3} \\ \sqrt{3} & -1 \end{pmatrix}$$

(3) $BA = \begin{pmatrix} \cos \frac{4}{3}\pi & -\sin \frac{4}{3}\pi \\ \sin \frac{4}{3}\pi & \cos \frac{4}{3}\pi \end{pmatrix}, \quad AB = \begin{pmatrix} \cos \frac{2}{3}\pi & -\sin \frac{2}{3}\pi \\ \sin \frac{2}{3}\pi & \cos \frac{2}{3}\pi \end{pmatrix}$

よって, $g \circ f, f \circ g$ の表す行列は, 原点 O を中心に, それぞれ $\frac{4}{3}\pi, \frac{2}{3}\pi$ だけ回転する一次変換を表す.

3 (1) $y = e^x$ より $y' = e^x$

C の点 $A_0(0, 1)$ における接線の方程式は

$$y - 1 = e^0(x - 0) \quad \text{すなわち} \quad y = x + 1$$

この直線と x 軸との交点の x 座標が b_1 であるから $b_1 = -1$

(2) C の点 $A_n(b_n, e^{b_n})$ における接線の方程式は

$$y - e^{b_n} = e^{b_n}(x - b_n)$$

ゆえに $y = e^{b_n}(x - b_n + 1)$

この直線と x 軸との交点の x 座標が b_{n+1} であるから

$$b_{n+1} - b_n + 1 = 0$$

ゆえに $b_{n+1} = b_n - 1$

上式および $b_1 = -1$ から $\{b_n\}$ は

$$b_n = -1 + (n - 1) \cdot (-1) = -n$$

(3) B_0 は原点であるから, (2) の結果は, $n \geq 0$ について成り立つ.

したがって $S_n = \frac{1}{2} B_n B_{n+1} \cdot A_n B_n = \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot e^{-n} = \frac{1}{2} e^{-n} \quad (n = 0, 1, 2, \dots)$

$0 < e^{-1} < 1$ であるから

$$\sum_{n=0}^{\infty} S_n = \frac{1}{2} \sum_{n=0}^{\infty} (e^{-1})^n = \frac{1}{2} \times \frac{1}{1 - e^{-1}} = \frac{e}{2(e - 1)}$$

4 (1) $f(x) = ax^2 + b$, $g(x) = c \log x$ とおくと $f'(x) = 2ax$, $g'(x) = \frac{c}{x}$

$C_1: y = f(x)$ と $C_2: y = g(x)$ が点 $P(e, e)$ で接するから

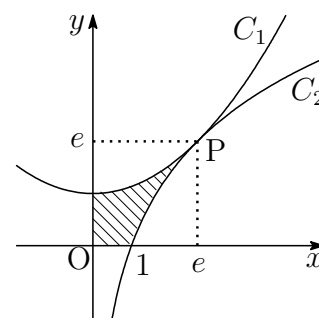
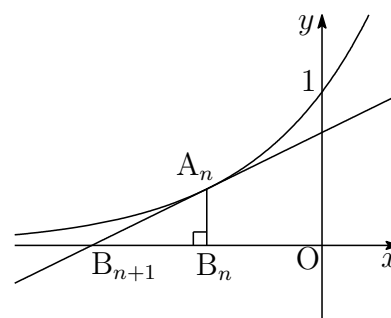
$$f(e) = g(e) = e, \quad f'(e) = g'(e)$$

したがって $ae^2 + b = c = e, \quad 2ae = \frac{c}{e}$

これを解くと $a = \frac{1}{2e}, \quad b = \frac{e}{2}, \quad c = e$

(2) 求める面積を S とすると, 右の図から

$$\begin{aligned} S &= \int_0^e \left(\frac{x^2}{2e} + \frac{e}{2} \right) dx - \int_1^e e \log x dx \\ &= \left[\frac{x^3}{6e} + \frac{ex}{2} \right]_0^e - e \left[x(\log x - 1) \right]_1^e \\ &= \frac{2}{3} e^2 - e \end{aligned}$$



5 (1) $a_{n+1} + b = 2(a_n + b)$ より $a_{n+1} = 2a_n + b$

これが $a_{n+1} = 2a_n + 2$ に一致するから $b = 2$

(2) (1) の結果から $a_{n+1} + 2 = 2(a_n + 2)$

ゆえに $a_n + 2 = (a_1 + 2) \cdot 2^{n-1} = (2 + 2) \cdot 2^{n-1} = 2^{n+1}$

よって $a_n = 2^{n+1} - 2$

(3) (2) の結果から

$$\frac{a_{2n}}{a_n} = \frac{2^{2n+1} - 2}{2^{n+1} - 2} = \frac{2(2^{2n} - 1)}{2(2^n - 1)} = \frac{(2^n + 1)(2^n - 1)}{2^n - 1} = 2^n + 1$$

$$\frac{a_{2n}}{a_n} \geq 10^{25} + 1 \text{ より } 2^n + 1 \geq 10^{25} + 1 \text{ ゆえに } 2^n \geq 10^{25}$$

$$\text{両辺の常用対数をとると } n \log_{10} 2 \geq 25 \text{ ゆえに } n \geq \frac{25}{\log_{10} 2}$$

$$\frac{25}{\log_{10} 2} = \frac{25}{0.3010} = 83.05 \dots \text{ より, 上式をみたす最小の } n \text{ は } n = 84$$

6 (1) $f(0^\circ) = 1, f(90^\circ) = 1$ より

$$f(0^\circ) = A \sin(0^\circ + \alpha) = A \sin \alpha = 1 \quad \dots \textcircled{1}$$

$$f(90^\circ + \alpha) = A \sin(90^\circ + \alpha) = A \cos \alpha = 1 \quad \dots \textcircled{2}$$

上の2式から $(A \sin \alpha)^2 + (A \cos \alpha)^2 = 1^2 + 1^2$

ゆえに $A^2 = 2$ $A > 0$ であるから $A = \sqrt{2}$

これと ①, ② により $\sin \alpha = \cos \alpha = \frac{1}{\sqrt{2}}$

$0^\circ \leq \alpha < 360^\circ$ より $\alpha = 45^\circ$

(2) (1) の結果から $f(\theta) = \sqrt{2} \sin(\theta + 45^\circ) \quad \dots (*)$

$$\begin{aligned} f(\alpha + 30^\circ) &= f(75^\circ) \\ &= \sqrt{2} \sin(75^\circ + 45^\circ) = \sqrt{2} \sin 120^\circ \\ &= \sqrt{2} \times \frac{\sqrt{3}}{2} = \frac{\sqrt{6}}{2} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \sin(\alpha + 30^\circ) \cos(\alpha + 30^\circ) &= \sin 75^\circ \cos 75^\circ \\ &= \frac{1}{2} \sin 150^\circ = \frac{1}{2} \times \frac{1}{2} = \frac{1}{4} \end{aligned}$$

(3) $\alpha = 45^\circ$, $g(\alpha + 30^\circ) = \sin(\alpha + 30^\circ) \cos(\alpha + 30^\circ)$ および (2) の結果から

$$g(75^\circ) = \frac{1}{4}$$

(*) に $\theta = 75^\circ$ を代入すると

$$f(75^\circ) = \sqrt{2} \sin 120^\circ = \sqrt{2} \times \frac{\sqrt{3}}{2} = \frac{\sqrt{6}}{2}$$

$\theta = 75^\circ$ を

$$\{f(\theta)\}^2 g(\theta) - k\{f(\theta)\}^2 = 2\{g(\theta)\}^2 - 2kg(\theta) + g(\theta) - \frac{1}{4} \quad \dots \textcircled{3}$$

に代入すると

$$\left(\frac{\sqrt{6}}{2}\right)^2 \frac{1}{4} - k\left(\frac{\sqrt{6}}{2}\right)^2 = 2\left(\frac{1}{4}\right)^2 - 2k \cdot \frac{1}{4} + \frac{1}{4} - \frac{1}{4}$$

これを解いて $k = \frac{1}{4}$

これを $\textcircled{3}$ に代入すると

$$\begin{aligned} \{f(\theta)\}^2 g(\theta) - \frac{1}{4}\{f(\theta)\}^2 &= 2\{g(\theta)\}^2 + \frac{1}{2}g(\theta) - \frac{1}{4} \\ \{f(\theta)\}^2 \left\{g(\theta) - \frac{1}{4}\right\} &= \{2g(\theta) + 1\} \left\{g(\theta) - \frac{1}{4}\right\} \end{aligned}$$

ゆえに $g(\theta) = \frac{1}{4}$ または $\{f(\theta)\}^2 = 2g(\theta) + 1$

$$\begin{aligned} \text{上の第2式は (*) より } 2g(\theta) &= 2\sin^2(\theta + 45^\circ) - 1 \\ &= -\cos 2(\theta + 45^\circ) \\ &= \sin 2\theta \end{aligned}$$

よって $g(\theta) = \frac{1}{4}$ または $g(\theta) = \frac{1}{2} \sin 2\theta$

7 (1) $y = -x^2 + 6x - 7 = -(x - 3)^2 + 2$ よって **A(3, 2)**

(2) l は 2 点 A(3, 2), B(1, -2) を通る直線であるから

$$y - 2 = \frac{-2 - 2}{1 - 3}(x - 3) \quad \text{すなわち} \quad \mathbf{y = 2x - 4}$$

(3) $y = ax^2 + bx + c$ が 2 点 A(3, 2), B(1, -2) を通るから

$$2 = 9a + 3b + c, \quad -2 = a + b + c$$

よって $\mathbf{b = -4a + 2, c = 3a - 4}$

(4) $C_2 : y = ax^2 + (-4a + 2)x + (3a - 4)$ と $l : y = 2x - 4$ で囲まれた図形の面積を S とすると, $a > 0$ より

$$\begin{aligned} S &= \int_1^3 [2x - 4 - \{ax^2 + (-4a + 2)x + (3a - 4)\}] dx \\ &= -a \int_1^3 (x^2 - 4x + 3) dx \\ &= -a \int_1^3 (x - 1)(x - 3) dx \\ &= -a \left(-\frac{1}{6} \right) (3 - 1)^3 = \frac{4}{3} \mathbf{a} \end{aligned}$$

8 (1) 加法定理により

$$\begin{aligned} & \cos\left(k - \frac{1}{2}\right)\theta - \cos\left(k + \frac{1}{2}\right)\theta \\ &= \cos k\theta \cos \frac{\theta}{2} + \sin k\theta \sin \frac{\theta}{2} - \left(\cos k\theta \cos \frac{\theta}{2} - \sin k\theta \sin \frac{\theta}{2}\right) \\ &= 2 \sin k\theta \sin \frac{\theta}{2} \end{aligned}$$

(2) $\sin \frac{\theta}{2} \neq 0$ すなわち $\theta \neq 2m\pi$ のとき (m は整数), (1) の結果から

$$\begin{aligned} S_n &= \sum_{k=1}^n \sin k\theta = \frac{1}{2 \sin \frac{\theta}{2}} \sum_{k=1}^n \left\{ \cos\left(k - \frac{1}{2}\right)\theta - \cos\left(k + \frac{1}{2}\right)\theta \right\} \\ &= \frac{1}{2 \sin \frac{\theta}{2}} \left\{ \cos \frac{\theta}{2} - \cos\left(n + \frac{1}{2}\right)\theta \right\} \end{aligned}$$

$\theta = 2m\pi$ のとき (m は整数) $\sin k\theta = \sin 2km\pi = 0$

ゆえに $S_n = \sum_{k=1}^n \sin k\theta = 0$

$$\begin{aligned} \text{9 (1) (i)} \quad {}_{n-1}C_{r-1} + {}_{n-1}C_r &= \frac{(n-1)!}{(r-1)!(n-r)!} + \frac{(n-1)!}{r!(n-r-1)!} \\ &= \frac{(n-1)!}{r!(n-r)!} \{r + (n-r)\} = \frac{n!}{r!(n-r)!} = {}_n C_r \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{(ii) (i) の結果を用いて} \quad {}_n C_r &= {}_{n-1}C_{r-1} + {}_{n-1}C_r \\ &= {}_{n-1}C_{r-1} + {}_{n-2}C_{r-1} + {}_{n-2}C_r \end{aligned}$$

(iii) (i) の結果により, ${}_{k-1}C_{r-1} = {}_k C_r - {}_{k-1}C_r$ であるから ($k \geq r+1$)

$$\begin{aligned} \sum_{k=r+1}^n {}_{k-1}C_{r-1} &= \sum_{k=r+1}^n ({}_k C_r - {}_{k-1}C_r) \\ &= {}_n C_r - {}_r C_r \end{aligned}$$

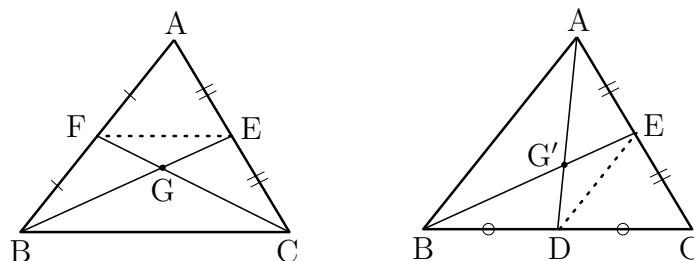
$$\begin{aligned} \text{したがって} \quad {}_n C_r &= \sum_{k=r+1}^n {}_{k-1}C_{r-1} + {}_r C_r \\ &= \sum_{k=1}^{n-r} {}_{n-k}C_{r-1} + {}_r C_r \end{aligned}$$

(2) 6種類のアイスクリームを A, B, C, D, E, F とする.

ABC, ABD, ABE, ABF	…4通り	
ACD, ACE, ACF	…3通り	
ADE, ADF	…2通り	
AEF	…1通り	ここまでに $4+3+2+1=10$ 通り
BCD, BCE, BCF	…3通り	
BDE, BDF	…2通り	
BEF	…1通り	次に $3+2+1=6$ 通り
CDE, CDF	…2通り	
CEF	…1通り	さらに $2+1=3$ 通り
DEF	…1通り	最後に 1 通り

したがって $10+6+3+1=20$ 通り

- 10 証明 $\triangle ABC$ の中線 BE と中線 CF の交点を G とし、中線 AD と中線 BE の交点を G' とする。このとき、まず 2 点 G, G' が一致することを示せばよい。



中点連結定理により

$$FE \parallel BC, \quad BC : FE = 2 : 1$$

となるから $BG : GE = BC : FE = 2 : 1$

よって、点 G は線分 BE を $2 : 1$ に内分する。

同様にして $BG' : G'E = AB : ED = 2 : 1$

よって、点 G' は線分 BE を $2 : 1$ に内分する。

線分 BE を $2 : 1$ に内分する点は 1 点だけであるから、2 点 G, G' は一致する。

したがって、3 つの中線は点 G で交わる。

また、 $AG : GD = BG : GE = CG : GF = 2 : 1$ であるから、3 つの中線の交点は各中線を $2 : 1$ に内分する。 証終

11 $f(x) = x^3 - (3p + 2)x^2 + 8px$ とおくと

$$f'(x) = 3x^2 - 2(3p + 2)x + 8p = (3x - 4)(x - 2p)$$

(i) $2p \geq 1$ すなわち $\frac{1}{2} \leq p < 1$ のとき

$f(x)$ は, $0 \leq x \leq 1$ で単調増加であるから

$$\text{最大値 } f(1) = 5p - 1, \text{ 最小値 } f(0) = 0$$

(ii) $0 < 2p < 1$ すなわち $0 < p < \frac{1}{2}$ のとき, $f(x)$ の増減表は

x	0	...	$2p$...	1
$f'(x)$		+	0	-	
$f(x)$	0	↗	$4p^2(2-p)$	↘	$5p-1$

$$\text{最大値 } f(2p) = 4p^2(2-p), \text{ 最小値 } \begin{cases} f(1) = 5p - 1 & (0 < p < \frac{1}{5}) \\ f(0) = 0 & (\frac{1}{5} \leq p < \frac{1}{2}) \end{cases}$$

(i), (ii) より

$$0 < p < \frac{1}{5} \text{ のとき } \quad \text{最大値 } 4p^2(2-p), \quad \text{最小値 } 5p-1$$

$$\frac{1}{5} \leq p < \frac{1}{2} \text{ のとき } \quad \text{最大値 } 4p^2(2-p), \quad \text{最小値 } 0$$

$$\frac{1}{2} \leq p < 1 \text{ のとき } \quad \text{最大値 } 5p-1, \quad \text{最小値 } 0$$